



浜比嘉島

民俗文化財・その他文化財

- 1 西の御嶽
- 2 ビジウル神
- 3 竜宮神
- 4 地頭代火の神
- 5 線刻石柱
- 6 東の御嶽(シヌグ堂)
- 7 ヤマトウンチュウ墓
- 8 浜の龕屋
- 9 中之御嶽
- 10 浜川御嶽
- 11 地頭代火の神
- 12 アマミチューの墓
- 13 ブートゥイチーチ
- 14 ソージ御嶽
- 15 シルミチュー
- 16 久場島ノ御嶽
- 17 吉本家

遺跡

- 1 浜貝塚
- 2 浜桃原遺跡
- 3 浜妻川丘陵洞窟遺跡
- 4 浜グスク
- 5 浜グスク東南畑遺物包含地
- 6 浜ナゴースチチ遺跡
- 7 浜吉田川の上洞窟遺跡
- 8 浜比嘉マーンチャー洞窟遺跡
- 9 浜比嘉中の御嶽洞窟遺跡
- 10 浜比嘉はちまん洞窟遺跡
- 11 浜比嘉浜川洞窟遺跡
- 12 比嘉小学校東方遺跡
- 13 比嘉グスク
- 14 比嘉大川遺跡
- 15 比嘉兼久上原遺物包含地
- 16 比嘉クバ島遺跡
- 17 比嘉兼久西丘陵遺物包含地
- 18 浜比嘉大あぶ洞窟遺跡
- 19 浜比嘉大あぶ洞窟遺跡北隣洞窟遺跡

井泉

- 1 前ヌカー(ウプガー)
- 2 イーヌカー
- 3 アガリカー
- 4 ユチャガー(吉田川)
- 5 東ガー
- 6 チーガー
- 7 ハマガー
- 8 ハルガー
- 9 ソージガー
- 10 上ヌカー
- 11 ミーガー

- 印は民俗文化財・その他の文化財
- 印は遺跡
- 印は井泉



浜比嘉島の文化財



1 浜貝塚

浜集落の南半分から南の山麓まで、広く分布する沖縄貝塚時代後期の貝塚です。
浜中学校体育館建設の際、埋葬人骨が出土しています。人骨は、頭骨を欠くが、その他は完全な形で保存されていました。葬り方は、あぐらをかけた姿勢で両足がくまれて、頭は南向きでした。副葬品としては、左側腰付近から刀子が発見されました。



1 前ヌカー(ウプガー)



4 地頭代火の神(浜)

浜の公民館敷地内に、コンクリート製の小祠があり、その中に火の神の依代として三個の霊石を祀った拝所です。
琉球王府時代、浜には地頭代のおえか地(役地)があり、地頭代となるためにはまず浜地頭を務めなければならなかったと言われています。「地頭代火の神」が奉安されたのはこの為とされ、貴重な歴史・民俗文化財です。なお、現在小祠には、『琉球国由来記』に記されている「殿(浜里主所)」と合祀されています。
今日でも、立身出世の神として、進学、旅立ちに際し祈願する習わしになっています。



差し石(比嘉公民館敷地内)

16 クバ島遺跡

琉球大学地理学研究会によって発見された遺跡です。兼久集落の海岸に独立した岩の島で、クバが生い茂っていることから「クバ島」と呼ばれています。
遺物は、島の中央部の岩場から土器や石器が採集されており、土器から沖縄貝塚時代後期末の遺跡とおもわれます。遺跡の立地から、祭祀遺跡の可能性がります。

比嘉のパーランクー

比嘉のエイサーは、一糸乱れぬ機敏な動きで、空手の構えを踏襲した踊りが特徴で、独自の世界を創りあげています。
戦前は集落の中央に流れる水路を中心に東西に分かれ、旧暦7月15日のワークイの夜はそれぞれ各家庭をまわり、アシビナーに東西のエイサーが集結し、互いの演技を競い合いました。比嘉エイサーの打ち鳴らすバチサバキ、足の運び、隊形移動など機敏な動きは他の地域の源ともいわれています。



10 浜川御嶽



6 東の御嶽(シヌグ堂)

東の御嶽では、旧暦の6月28日と8月28日の年二回「シヌグ祭り」が行われることからシヌグ堂とも呼ばれています。シヌグ祭りは、昔、戦に敗れた南山の「平良忠臣」とその一味7~8人が浜に渡って、シヌグ堂に身を隠し、住民に頼んで島の周囲を警戒させて難を凌いだという故事から始まっています。



4 浜グスク

浜集落の東南方向にある石灰岩丘陵台地の先端部に築造され、集落を見下ろすようにあります。イリグスクとも呼ばれています。
グスクは天然の要塞となる崖がめぐり、南東側に野面積み石積があります。グスク内は北側と南側で2mほどの落差があり、二つの郭からなっています。グスク土器や類須恵器などの遺物を採集することができます。



7 ヤマトウンチュウ墓

12 アマミチューの墓

16 クバ島遺跡

15 シルミチュー

7 ヤマトウンチュウ墓

ヤマトウンチュウ(大和人)墓は、天保10年(1839)の水戸藩船が漂着した歴史を伝えるものです。天保10年水戸藩廻船漂着文書には、救助された水戸領の周蔵と仙台領の宇(郊)太郎は、無事帰国することができ、救助前に死亡した南部領の五助(18歳)、源助(50歳)、亀松(31歳)、仙台頭の吉蔵(30歳)、仲蔵(47歳)の5人をこの地に葬ったと伝えられています。



17 吉本家

吉本家の主屋は、明治末頃、チャーギ(イヌマキ)を使用して建てられた木小屋形式の本瓦葺き平屋です。
屋敷構えは、琉球石灰岩を用いあいかた積み石垣で囲い、門を入ると正面に石造りのヒンプンが築かれています。主屋は敷地のほぼ中央に配し、北西側には、フル(豚小屋を兼ねた便所)、南側には自然の岩を利用した石庭があります。主屋の裏側には、アタイ(敷地内にある野菜畑)があり、台所や裏座を増築していますが、全体的によく保存され、沖縄の地方に残る、伝統的な建築様式を色濃く残しています。

10 浜比嘉はちまん洞窟遺跡

1964年に多和田真淳氏によって発見された洞窟遺跡です。比嘉小学校の北方の丘陵上にあり、北側面(海向き)に縦穴を形成しています。
洞窟内中央に高さ約60cmの鍾乳石があります。この鍾乳石には、珍しい模様があり、今から1万2千年も前に一夜にして海に沈んでしまったと伝えられるアトランチス大陸の太陽神の模様に見えるというところで話題になりました。



13 ブートゥイチーチ

ブートゥイチーチは、賦取石という意味で、昔子供が成長し、この石の高さになると村賦(共同作業)に出されました。以前は四尺ほどの高さがあったが、現在は小さくなっています。神様が座ったり、馬のたづなを結んだ石とも伝えられています。